

海外進出ステップアッププログラム「セミナーD実施レポート」

11月7日に第4回目となるセミナーD「ピッチとバイブルのスキルアップを考える」を開催いたしました。セミナーDではSprinkles on Topのクリエイティブディレクターとして、ピッチやバイブルのコンサルティングを行うAntony氏にニュージーランドからアクセスいただきました。実際のピッチバイブルを用いながら、何をどう修正することで、どのように相手に伝えるのかといった観点からお話をいただき、非常に実践的なノウハウを提供いただきました。今回の内容を参考にしながら、次回以降のWSでもご自身のピッチ資料や企画を練りこんでいただくことを期待しています。

セミナーD「ピッチとバイブルのスキルアップを考える」 講演内容ご紹介

「Developing your Bible and your Pitch / ピッチとバイブルの作り方」

Creative Director, Sprinkles on Top

Antony Gusscott氏

- Antony氏からは、まず海外でのビジネスにおいてピッチとバイブルが使われていく流れとして、作品担当者へのピッチ、フォローアップメールの送付、バイブルの送付、先方の社内審査、先方会社へのピッチ、契約、という流れで進んでいくことを説明いただきました。この流れの中で、ケーススタディとして、実際に韓国の制作会社がco-productionの相手を探している時のバイブル、ピッチ資料の例を用いて、まずはバイブルをどのような観点で作っていくのか、ピッチ資料をどのような観点で作っていくのか、項目ごとに詳細を解説いただきました。
- バイブルは表紙の一枚目から相手に伝えたいことを明確にしてストーリーがわかるようなデザインを考えることが重要だということから始まり、ログラインを簡潔に記載すること、作品の概要を紹介する際には、内容だけでなく、作品を企画した理由やなぜ視聴者がこの作品を見たいと思うのか、なぜこの作品が存在する必要があるのか、視聴者がどのような共感を得るのか、この作品にどのような感想を持つのか、どこにユニークさがあるのか、といった点に留意して説明することの大切さを解説いただきました。そのほかにも、キャラクター紹介の見せ方、サンプルエピソードで作品イメージを伝えること、スケジュールや体制等のビジネス面の想定などについてもひとつひとつ丁寧にポイントを解説いただきました。
- ピッチ資料については、バイブルから必要な情報だけに絞り込んでいくことが非常に重要であることをお伝えいただきました。情報を絞り込むだけでなくバイブルの構成から、物語を見せるような構成に並び替えていくこと等、商談相手をうならせるようなノウハウを伝授いただきました。
- 質疑応答では、バイブルからピッチ資料に絞り込む際の使いまわしの考え方や、ピッチ時間と資料枚数の関係等の具体的な作成技術に関する質問から、実際にAntony氏のような方にピッチやバイブル資料を添削、コンサルティングしていただく際の予算感や依頼の方法等について多岐にわたって様々な質問がありました。また、事務局に対してもピッチグランプリの挑戦に際したピッチ資料の作り方に関する質問もあり、視聴者の皆様のチャレンジ意欲が伝わってくる質疑応答セッションとなりました。



Antony氏によるセミナーの様子